



Title	沖縄のスポーツツーリズムとホスピタリティに関する比較研究：「ECOスピリットライド&ウォークin南城市」と「GREAT EARTH 石垣島ライド」における事例から
Author(s)	塩月, 亮子; 渡辺, 律子; 荒川, 雅志
Citation	観光科学 = Journal of Tourism Sciences, 7: 1-20
Issue Date	2015-12-01
URL	<a href="http://hdl.handle.net/20.500.12000/33406">http://hdl.handle.net/20.500.12000/33406</a>
Rights	

沖縄のスポーツツーリズムとホスピタリティに関する比較研究  
—「ECOスピリットライド&ウォーク in 南城市」と「GREAT EARTH 石垣  
島ライド」における事例から—

A Comparative Study on Sports Tourism and Hospitality in Okinawa: Case Studies on  
“ECO SPIRIT RIDE & WALK IN NANJO CITY” and “GREAT EARTH  
ISHIGAKIJIMA RIDE”

塩月亮子\*・渡辺律子†・荒川雅志‡

Ryoko SHIOTSUKI, Ritsuko WATANABE, Masashi ARAKAWA

**Abstract**

As a participatory type of tourism, sports tourism enables sustained economic benefits stemming from tourism since some tourists, if they enjoyed the sporting events, will make another visit in order to participate again. Additionally, we can expect revitalized communities and a sense of solidarity within those communities since the establishment of such events requires the cooperation of local residents. Working under the hypothesis that areas falling under the category of hospitality – such as the degree of local engagement as well as ingenuity and enthusiasm in entertaining guests, among other things – have a significant correlation with sporting event participants’ levels of satisfaction, in this study we conducted a questionnaire survey targeting event participants and collaborators from the ECO Spirit Ride & Walk in Nanjo City (Feb. 23, 2014) and the GREAT EARTH Ishigaki Ride (Oct. 27, 2013) in order to investigate the relationship between sporting events and hospitality.

Looking at the results of the free-response section, we found that event collaborators were satisfied that they could contribute to the publicity and revitalization of their community, that they enjoyed meeting many people at the events, and that they even felt delight themselves in seeing the delight of the participants. When asked about the degree to which they were satisfied with their participation in the event, over 90% of event collaborators were satisfied. It was also found that over 90% of event participants were satisfied. Moreover, almost all respondents answered that they would like to participate in the event again the following year. It was also clear from the free-response section of the questionnaire that event participants were attracted by the locally-oriented food and the fact that it was provided by local hotels and community residents.

It is clear from these two case studies that areas falling under the category of hospitality, such as the engagement of locals as well as ingenuity and enthusiasm in entertaining guests, among other things, have a significant correlation on the level of satisfaction of event participants.

**はじめに**

2007年「観光立国推進基本法」が制定され観光庁(国土交通省の外局2008)が設立された。観光庁は新しいツーリズム商品(ニューツーリズム)として、産業観光、エコツーリズム、グリーンツーリズム、ヘルスツーリズム、ロングステイ(長期滞在型観光)、文化観光、スポーツツーリズムを掲げている。従来の物見遊山的な観光旅行に対して、ニューツーリズムとはテーマ性が強く、体験型・交流型の要素を取り入れ

\*跡見学園女子大学観光コミュニティ学部

†文教大学教育学部

‡琉球大学大学院観光科学研究科

た新しい形態の旅行を指す（国土交通省 2010）。

スポーツツーリズムは、従来の観光旅行のように一度見学（訪問）をすると再訪する事が少ない「訪問型」ツーリストに比べると、参加者（ツーリスト）はそのスポーツイベントを気に入れば、参加・観戦を目的として再び訪問するため、ツーリズムによる経済効果を持続することが可能である。またスポーツイベントには地域住民の協力が必要であるため、地域の連帯感や活性化も期待できる。その一方で、経済効果やツーリストを呼び込むことによる弊害（自然及び住民生活の環境悪化等）も指摘されている。

沖縄県では、旅行客数の伸び悩みと観光消費単価減少の打開策としてスポーツツーリズムの推進を図り、新たな観光需要を作り出し、旅行客の増加と県内産業等の活性化を期待している。筆者らは、沖縄県で開催されているスポーツツーリズムの事例として、ウォーキングと自転車のスポーツイベントである「ECO スピリットライド&ウォーク in 南城市」<sup>1)</sup>を取り上げ、その第1回大会(2011.4/24)、第2回大会(2012.3/25)、第3回大会(2013.2/24)における参加者に対してアンケート及び測定調査を行った。それらの調査研究を通じて気づいたことは、参加者の満足度には地元の人々の協力度合いや接待の工夫、熱意など、ホスピタリティ力といわれるものが大きく関連してくるという点であった。ホスピタリティはもともとキリスト教における巡礼者への接待を意味し、日本でも寺院などへの巡礼者に対し、お布施や食事、宿の提供を行ってきた。現在ではホスピタリティという語は単に巡礼者に対してのみならず、地元の人々（ホスト）による観光客（ゲスト）に対しての接待の意味でも使われている。観光客にとっては地元の人々とどのくらい密に触れ合えたかで、その旅の印象や満足度が変化するといえる。

そのため、「ECO スピリットライド&ウォーク in 南城市」第4回大会（2014.2/23）では、イベントの参加者ではなく協力者に対してアンケートを行った。今回は沖縄県の自転車イベント「GREAT EARTH 石垣島ライド」（2013.10/27）においてもイベント協力者に対するアンケート調査を実施した。本稿では、これらアンケートの調査結果をもとに、各イベントにおいて開催地に住む協力者がどのような理由から実施に関わり、実施後は協力したことでどのくらい満足したのか、あるいはどのような感想をもち、どのような改善点を挙げたかを比較分析する。そして、それらがイベント参加者の満足度とどう関係してくるのか、すなわち地域がもつホスピタリティ力がイベント参加者の満足度に対してどのような効果をあげているのかを明らかにする。

## 1. スポーツツーリズムとホスピタリティ

観光庁が打ち出したニューツーリズム政策方針(2008)を遂行するため観光立国推進本部（2009.12）が立ち上がり、ここで「スポーツ観光」が採り上げられ「スポーツツーリズム推進連絡会議」が発足した(2010.5)。

「スポーツツーリズム」とは観光立国日本の実現に向けて「スポーツ」と「ツーリズム」の融合を狙ったものである。日本の持つ自然の多様性や環境を活用し、スポーツという新たなモチベーションを持った人々の観光旅行需要の喚起と旅行消費の拡大を狙っている。スポーツイベントの目的としてスポーツ振興（普及発展）、スポーツ自体を楽しむ（勝敗・記録更新）、健康の維持増進等が上げられるが、昨今はスポーツを観光の観点から捉え、その経済効果が期待されている。例えば地方で開催されるスポーツイベントの場合、参加者や観戦者は旅行という形態を取る場合が多くツーリズム効果と開催地の活性化が期待される。現在のところスポーツツーリズムの定義に決まったものはなく、便宜的に領域を限定して説明される事が多い（工藤康宏、2012）。

スポーツツーリストの目的は多様であるが、スポーツ活動と観光を楽しむために旅行という形態をとる場合が多い。工藤(2012)はスポーツツーリストの特徴として「参加重視タイプ」と「参加/行先特徴重視タイプ」に分け、前者は観光消費行動をあまり期待出来ず、後者は観光資源もイベントの魅力として判断

し「同伴者の存在」「大会の付加価値」「開催地のホスピタリティ」を重視し、「開催地の文化遺産・観光」にも魅力を感じて観光や消費行動が期待出来ると述べている。

学問領域では「スポーツツーリズム」の周辺領域として「ヘルスツーリズム」がある。「ヘルスツーリズム」とは「自然豊かな地域を訪れ、自然、温泉や身体にやさしい料理を味わい、心身ともに癒され、健康を回復・増進・保持する新しい観光形態であり、医療に近いものからレジャーに近いものまで様々なものが含まれる」（観光立国推進基本計画 2007）。

木村(2009)はスポーツとヘルスという広い領域を包括した形を「スポーツ・ヘルスツーリズム」と定義し、「予定調和と回帰性というツーリズムの基本的特徴を持つ時間消費型レジャーであり、健康な人をより健康にするため、スポーツ・運動、食、自然体験、美容などを組み合わせた楽しい観光体験活動を実践する仕組みや考え方」であるとしている。また他のツーリズムと異なった特徴として「スポーツツーリズムは、観光の主体がスポーツツーリストであり、観光資源は体育館やスタジアムといった運動施設だけではなく、海や山等の自然環境であったり、オリンピックやワールドカップなど各種スポーツイベントやリーグ戦であったりする」と、観光という視点からスポーツツーリズムを明確に分析している。

沖縄県は旅行客数の伸び悩みと観光消費単価減少の打開策として、スポーツツーリズムの推進をはかり、新たな観光需要を作り出し旅行客の増加と県内産業の活性化を期待している。沖縄県の観光資源として温暖な気候、独特の自然環境、歴史・伝統、マリンスポーツが挙げられるが、そこに新たにスポーツ資源という視点を加えて沖縄県全体の地域活性化を目指している。沖縄県は 2010 年度から観光庁の支援を受け「沖縄県スポーツツーリズム戦略推進事業」を立ち上げた。事業内容の一つとして、2010 年度よりスポーツツーリズムを沖縄に定着させるために、「スポーツ」をテーマに民間や自治体が運営するイベント、スポーツを活用した旅行メニューのプロモーションやプロジェクト実施の企画提案を公募し、人件費、事業費の支援を行っている（2010～2014 年度現在継続）。モデル事業として初年度は「第1回エコアイランド宮古島マラソン」、「美ら島オキナワ Century Run 2012」等、11 のプロジェクトが選定された。筆者らが調査を行った「ECO スピリットライド&ウォーク in 南城市」も 2010、2011 年度において本事業に採択されている。

次章からはこれまで研究を続けてきた沖縄本島南城市で行われているイベント「ECO スピリットライド&ウォーク in 南城市」、および石垣島で開催されている「GREAT EARTH 石垣島ライド」を取り上げ、各イベントにおける協力者に焦点を当て、地元のホスピタリティの重要性に関して考察していく。

## 2. 事例1. 「ECO スピリットライド&ウォーク in 南城市」

沖縄には、聖地を「門中」（父系親族組織）や家族単位でめぐる伝統がある。例えば沖縄本島南東部で行われてきた「東御廻り」（アガリウマーイ）は、琉球開闢の神「アマミキヨ」の伝説に基づく聖地に、歴代の琉球国王が国の繁栄と豊穡を感謝して巡拝したことがその始まりといわれる。現在はこのような伝統行事が、観光・スポーツ・歴史の学習等を目的とした新たなイベントとして活用されている。参加者は聖地や遺跡を巡ることで歴史や文化を学び、スピリチュアリティを高めると同時に健康を促進し、観光を楽しむ、あるいは地域経済の活性化に貢献することが期待される。

沖縄本島南部に位置する南城市では、同市にあるセーファーウタキ（斎場御嶽；2000 年世界遺産に認定）をはじめ、本島内の聖地や史跡を自転車や徒歩で巡るスポーツイベントを開催している。本章ではこのイベントを事例として取り上げ、主にイベント協力者へのアンケート調査から明らかとなったことをみていくことにする。

南城市は、平成 18 年（2006）1 月に旧佐敷町、知念村、玉城村、大里村の四町村が合併して誕生した。

『南城市地域再生マネージャー事業 2006—2008 年度活動報告書』（沖縄県南城市 まちづくり推進課編 2009、p.1）によれば、「南城市には、緑、水、海、風、太陽といった恵まれた自然環境と、琉球民族発祥神話の地、五穀栽培発祥伝説の地としての長い歴史」があり、「世界遺産に登録された斎場御嶽（せーふあーうたき）、神々の島・久高島に代表される、沖縄の精神文化を象徴する歴史遺産」があるという。そして、このような地域資源のネットワーク化を「見る」、「癒す」、「学ぶ」をモットーにおこない、観光・保養の拠点づくりを目指そうとしている。その際、（Ⅰ）豊かな自然や聖地と（Ⅱ）免疫力や治癒力を高める統合医療との考え方を結び付け、南城市ならではのツーリズムを確立したいとする。これらの構想に基づき、平成 19 年（2007）4 月には「琉球のスピリチュアリティを求めて」と題した冊子やウェブサイトの作成をおこない、「拝所巡礼の東御廻り（あがいうまーい）と統合医療をキーワードにした今後の取り組みを紹介した」（同報告書 2009、p.2）。

さらに、南城市は外部にも目を向け、セーファーウタキ（斎場御嶽）と同じように世界遺産に認定された聖地、熊野古道との連携を図ったり、現在パワースポットのひとつとして有名な宮崎県の高千穂との姉妹都市化を進めたりもしている。

以上から、南城市は地域再生に景観や聖地、歴史、神話などの伝統文化を活用し、統合医療を含むスピリチュアリティの思想とそれらを積極的に接合させることで、従来の観念とは異なる新たな文化創造を試みていることがわかる。なかでも、世界遺産の一部として認定されたセーファーウタキは、市にとって最も活用されるべき文化・社会資源であり、癒されるパワースポットとして「東御廻り」（アガリウマーイ）の慣習とともに集客戦略の要と位置付けられている。

このような背景から、南城市は、「国際ジョイアスロン in 南城市」というスポーツイベントを 2004 年から 2011 年まで開催してきた。これは、同市にあるウェルネスリゾート沖縄休暇センター・ユインチホテル南城を会場とし、小・中学生から大人までを対象に聖地や史跡をサイクリングやウォーキングで廻るイベントだった。2011 年には、それに沖縄タイムス社主催の「ECO スピリットライド in 南城市」第 1 回大会というサイクリングのイベントが新たに加わった<sup>2)</sup>。このサイクリングイベントでもウェルネスリゾート沖縄休暇センター・ユインチホテル南城が会場となり、「世界遺産コース」（160 km；勝連城や中城城跡、首里城、セーファーウタキ（斎場御嶽）、平和祈念公園などの広域を廻るコース）、「首里城・平和祈念コース」（80 km）、「琉球王朝聖地巡礼 東御廻りコース」（45 km＋希望者は久高島の 23 km）という 3 種のコースが用意された。

本大会の第 2 回目は、前年まで別々に行われていた「ECO スピリットライド in 南城市」と「国際ジョイアスロン in 南城市」の 2 大会が統合される形で、2012 年 3 月 25 日（日）、「2012 おきなわ ECO スピリットライド&ウォーク in 南城市」として開催された。イベントの目的は第 1 回と同様、順位やタイムを気にせず、本島南部に点在する琉球の聖地や東海岸の風光明媚な景色に存分に触れ、家族でスポーツに親しみつつ健康増進を図り、スピリチュアルセレモニーで琉球の心を伝え、環境保全を訴えることだった<sup>3)</sup>。

沖縄タイムス社が担当した自転車聖地や遺跡を巡るライド部門は 160km、80km、50km、30km の 4 コース、南城市が担当した徒歩で巡るウォーク部門は 20km、14km、7km の 3 コース（同距離が設定されたノルディックコースを入れると計 6 コース）が用意された。ライド部門はユインチホテル南城前がスタート&ゴール地点となり、532 人が参加した。一方、ウォーク部門はグスクロード公園がスタート地点、ユインチホテル南城がゴール地点で、739 人が参加し、大会の参加者は計 1,271 人となった<sup>4)</sup>。

続いて翌年の 2013 年 2 月 24 日（日）、大会第 3 回目「2013 おきなわ ECO スピリットライド&ウォーク in 南城市」が開催された。これも第 2 回大会と同様、自転車のライド部門は沖縄タイムス社、ウォーク部門は南城市が担うという分業体制がとられた。第 3 回大会のライド部門参加者は 501 人、ウォーク部門

参加者は1,060人、計1,561人がこのイベントにエントリーした。これは前年より290人増加したことになる。

本稿で扱う2014年2月23日(日)に行われた「2014 おきなわECOスピリットライド & ウォーク in 南城市」はライド部門が首里城・南部を走る100km、南城市周遊50km、久高島コース3km、新設されたファミリーサイクリング15kmの4コースが用意された。また、ウォーク・ノルディック部門は7km、2km、1kmの3コースが選ばれた。本大会の総参加者は1,382人、イベント協力者は約130人で、協力者のうち37人がアンケートに回答してくれた。そのうち男女の割合は約半々だった。

所属の内訳に関しては、多い順から出店関係者約32%、ボランティアガイド約26%、協賛の南城市役所関係者約21%、ユインチホテル関係者は約5%、観光業関係者約3%いた(図1参照)。その他、イベント主催の沖縄タイムス社関係者やライド部門のリーダー役(沖縄県サイクリング協会)、移動監察バイク役(沖縄県トライアスロン連合)、沖縄リハビリテーションセンター病院関係者なども協力者(移動監察スタッフ)としてイベント実施のために来ていた。

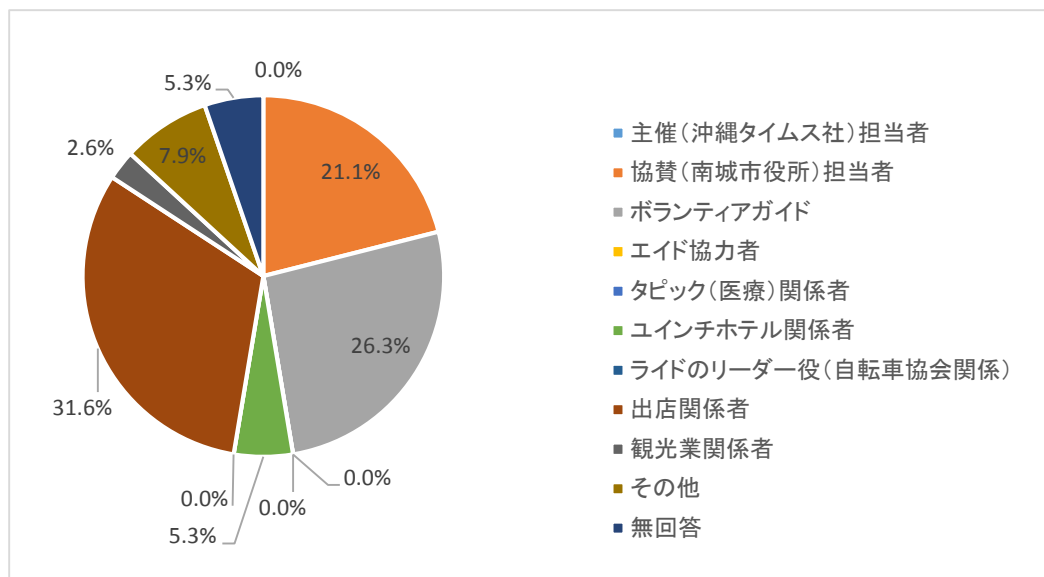


図1 協力者の所属

年代に関しては30代が約24%と最も多く、次いで40代が約22%、10代と60代が約16%、50代が約11%だった。70代以上は体力的な関係があまりいなかった。20代が約3%と大変少ないことは、県外への進学率や就職率の多さと関係するのかもしれない。(図2参照)。

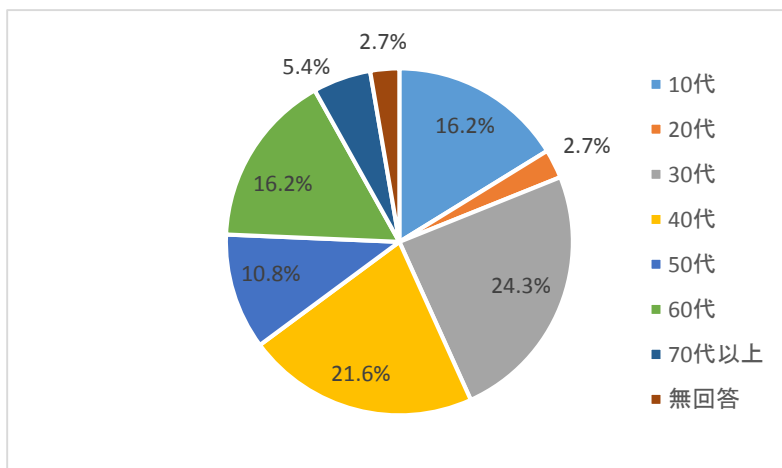


図2 協力者の年代

アンケート回答者の居住地をみると約95%が沖縄県内で、そのうち約71%が南城市在住者だった。ここからは、当該イベントが地元の協力者により支えられていることがわかる（図3・4参照）。

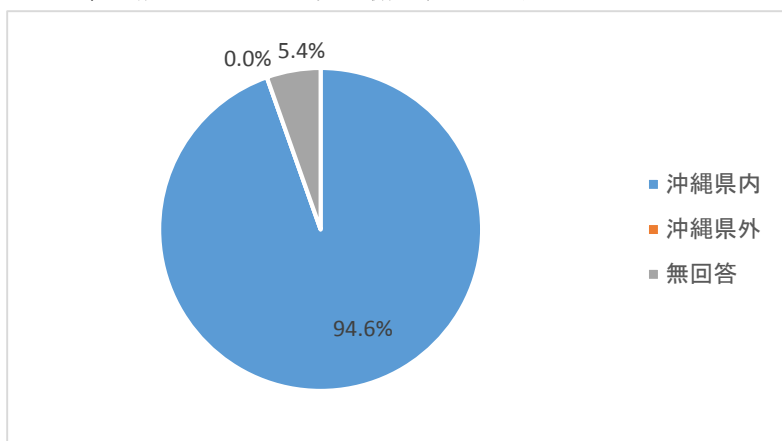


図3 協力者の居住地

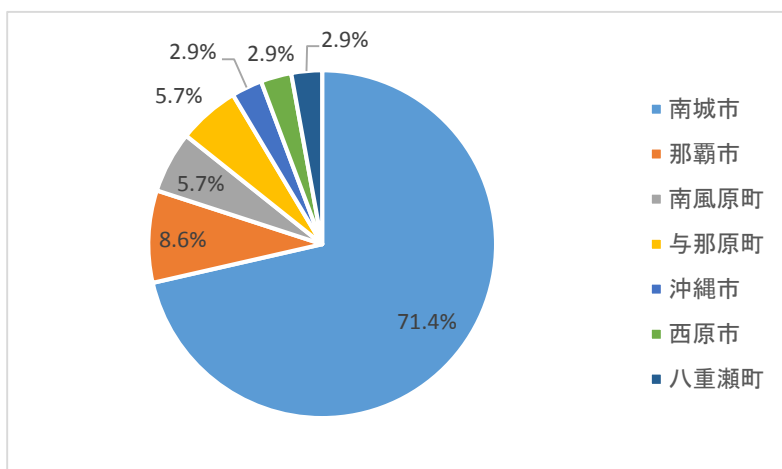


図4 協力者の居住地詳細

職業に関しては、大半の約46%が会社員や公務員で、その次は経営者・自営業が約19%、学生が約16%の順に多かった（図5参照）。

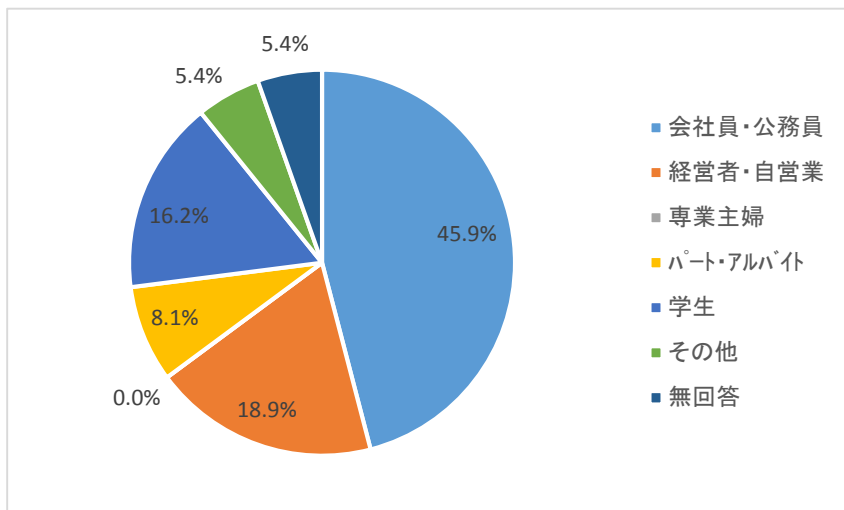


図5 協力者の職業

協力者がイベントに関わった理由は「業務で依頼を受けたから」が最も多く、次いで「地域活性化のため、『おもてなし』をしたいから」、「地域の歴史・文化を伝えたいから」、「自転車に興味があるから」の順だった（図6参照）。そこからは、協力者にイベント協賛の役所関係者や出店者が多かったため、自発的というよりは業務として協力したことがうかがえた。しかしながら、地域活性化やおもてなし、歴史文化を伝えたいという理由も少なくはなかったため、協力者は主催者の目的をよく理解し協力していたと考えられる。

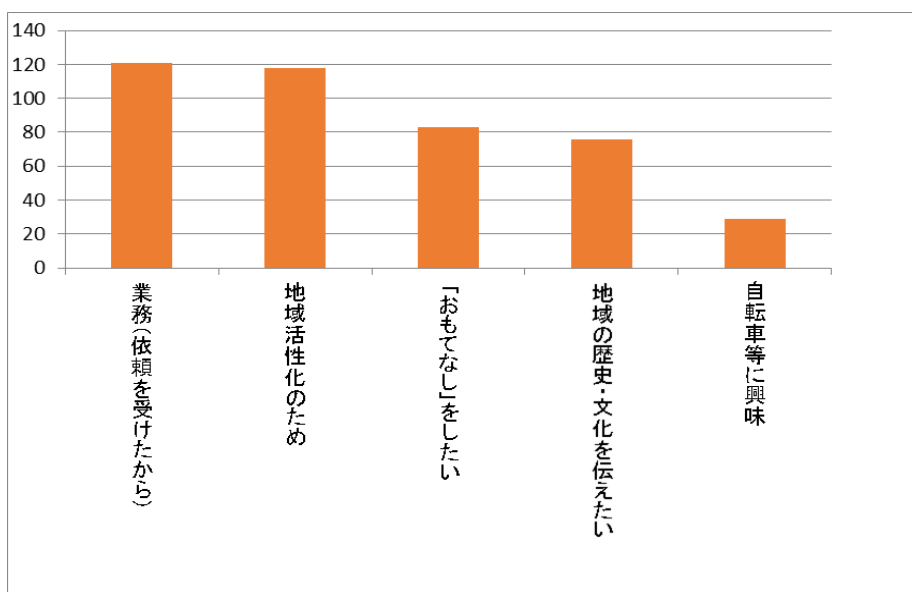


図6 協力者の参加理由



続いて協力者のイベントに関わった満足度に関しては、とても良いと答えた人が約60%と最も多く、良いが約26%、普通が約11%と、おおむね協力したことに満足したことがわかる（図7参照）。

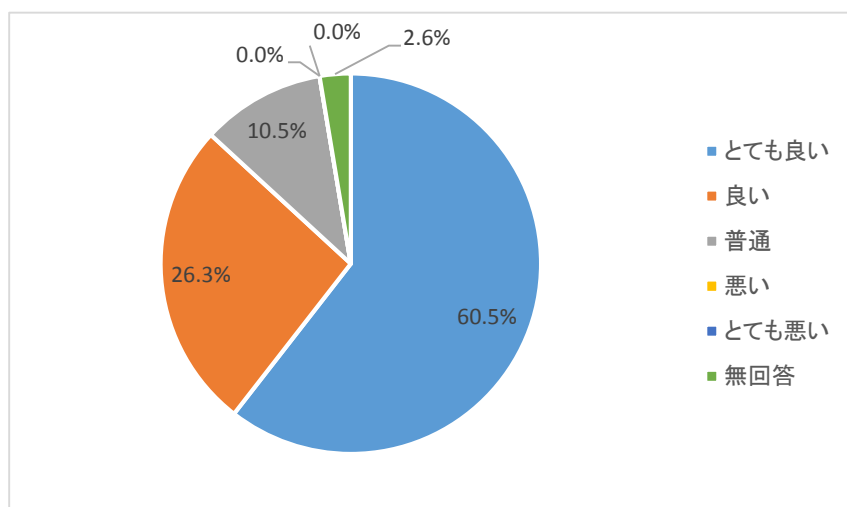


図7 協力者の満足度

協力者が満足した理由をアンケートの記述欄からみると、「完走者のお顔の笑顔に満足です」「参加者の皆さん喜んでおられるようで、うれしいです」「みんな楽しんでいた！」「貴重な出会いと初の参加でしたので、ワクワクドキドキでたのしかったです」「いろいろな方達と会えて、お話しできること、エコの大切さです」「多くの参加者とふれあいの時間を持つことができた」などがあり、協力者たちがイベントで多くの人々との出会いを楽しみ、参加者の喜ぶ姿に自らも喜んだことがわかる。

また、「琉球開闢の地として歴史・文化・自然・癒し・もてなしを存分に味わえるイベントだと自負します」「南城市のPRになる」「広く認識を得て地域活性化につなげる事(ができた)」など、地元の宣伝や活性化など地域貢献ができたことに満足した協力者も少なくなかった。その他、「いそがしかったけど、充実した」「自然の中で過ごせて、ガイドができた」「リユースの皿でゴミが少なかった」「沖縄の伝統芸能が見られてよかったです」など、協力者自身もイベントへの協力を通して地元への理解を深め、エコロジー活動などを行ったことで満足を感じていることがわかった。

さらに、今後県外からの参加者を多く呼びたいかという質問に対しては、「はい」と答えた人が約83%、「いいえ」と答えた人が約5%だった。そこからは、現在、ほぼ県内の参加者で占められているこのイベントに、県外の人も呼び込みたいという気持ち強いことが読み取れる。

県外の参加者を増やしたい理由には、「沖縄の地元愛をもっと本土の方にも知っていただきたいから」「楽しく意味のある体験をしてもらいたいから」などが挙げられており、地元の魅力をアピールしたいという思いがあることがわかる。

しなしながら、参加者に関しては、主催者の意図を汲んで活動していた協力者とは異なり、イベントの趣旨のなかでも重要な要素である聖地やスピリチュアリティ、歴史・文化に対する興味はわずかしかなかったという結果が以前の調査から出ている（塩月亮子・丹野忠晋・渡辺律子2012および2103参照）。主催者・協力者と参加者の認識のずれは、今後真っ先に改善すべき点といえる。

その他、協力者自身が挙げた改善点としては、「県外のサイクリング大会・ウォーク大会場での本イベントのピーアールと誘客を図っていく」「もっと広告でアピールする」「CMやポスターなどで、もっとPRした方がいいと思う」「もっと県外の方達に分かる告知を行ったらいかがでしょうか」「雑誌などにのせた

らいいかも」「エイドステーションで沖縄スイーツをもっと増やす」「出店（食物）が少ない」「屋台メニューの充実さ」「商品の量をもっと多くする」「ゴール時の『お・も・て・な・し』が足りない。（美ら島センチューリーを見ならって下さい）」など、本土への宣伝の必要性や沖縄色をより鮮明に打ち出す案<sup>5)</sup>、おもてなしのさらなる充実を目指すことなどが記されていた。

このように、協力者たちは今後、当該イベントの実施を通してより多くの県外参加者と交流することを望み、ホスピタリティ力をさらに充実させたいと考えているのである。

### 3. 事例2. 「GREAT EARTH 石垣島ライド」

「GREAT EARTH 石垣島ライド」<sup>6)</sup> は自転車を通して仲間や地元の人々との交流や美しい自然、文化を楽しんでもらうことを目的にしたロングライドサイクルイベントである。50～120kmの距離を制限時間内で自分のペースで楽しむことが出来き、また信号のない道を走ることが出来る日本最南端のサイクルイベントである。初心者・女性でも完走を目指せる制限時間・充実したホスピタリティをうたっている。大会翌日にはオプションツアーが2つ用意されており、「西表島ツアー」は西表島に渡り40kmのショートラン、ジャングルクルーズ、マリウデいの滝へのショートレックといったアドベンチャーツアー、「黒島ウミガメ放流体験」は黒島に渡りウミガメの放流や島巡りを通して島の歴史や伝統を学ぶツアーである。また、サンセットパーティー（大会終了後）やウエルカムパーティー（大会前夜）が行われ、地元酒造メーカーによる飲料の提供、沖縄県出身のシンガーによるミニライブ、石垣市長らの参加もあった。本イベントは2008年11月30日に第1回が開催され、2014年10月26日まで7回開催されている。参加者人数は2008年313名、2009年502名、2010年402名、2011年472名、2012年352名、2013年330名であった。2011年、2012年大会は沖縄県のスポーツツーリズム戦略事業に採択されたイベントである。

筆者らはまず、2012年のイベントに参加し（90kmコース）、2013年のイベントにおいて参加者及び大会協力者に対してアンケート調査を行った。

#### 3.1. 調査内容

##### イベント概要

イベント開催日程：2012年10月28（日）及び2013年10月27日（日）

開催地：沖縄県石垣島

コース：

①120kmコース（ギバリョーコース）

②90kmコース（フナクヤーコース）

③55kmコース（カビラワンコース）

大会参加費：

大人10,000円、高校生以下5,000円（別途エントリー手数料）八重山地区住民5,000円

ウエルカムパーティー参加費4,000円（参加自由）

オプションツアー：

A.西表島ジャングルクルーズ（参加費15,000円）

B.黒島ウミガメ放流体験（参加費 大人10,000円、子供6,000円）

調査方法：アンケート調査及びヒアリング

一般社団法人アースライドプロジェクト<sup>7)</sup>（本イベント主催者）による事後アンケート(2012年)を参考に質問紙を作成<sup>8)</sup>し、2013年のイベント参加者及び協力者（競技団体、サポーター、補助役員、ボランティア

ィア等) への事後アンケート調査を行った。結果の分析にあたっては、2012年に主催者が行った参加者へのアンケート結果を合わせて分析対象とした。協力者に対してはヒアリング調査も行った。アンケート有効回答は参加者が延べ560名(2012年288名、2013年272名)、協力者が34名であった。

### 3.2. 結果及び考察

#### 3.2.1. 参加者へのアンケート

アンケート調査結果による男女比は男性が7割で、年代構成は図8の通りであった(図については2013年大会の結果のみ掲載する)。30・40代の比較的经济力のある世代の参加が多いことがわかる。本イベントへの参加経験については、初参加が5割(2012年は54%、2013年62%。以下、()内の%表示は2012年、2013年データ順に記載)であり、比較的リピーター率が高いことがわかる(図9)。

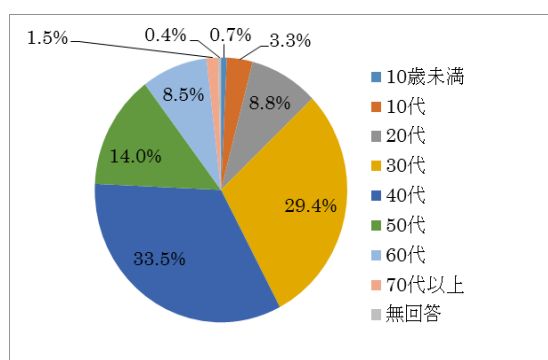


図8 年代構成

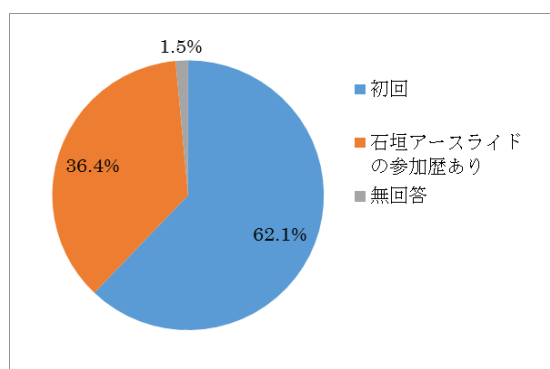


図9 本イベント参加経験

居住地については県内が2割(30%、23%)であり(図10)、県内居住者の8割が石垣市であった。宿泊日数については、参加者の8割以上が宿泊を伴うツーリストであることがわかる(図11)。本イベントは石垣島の地理的特徴から、多くの参加者の宿泊は必然であり、地元への経済波及効果もあることが推測される。

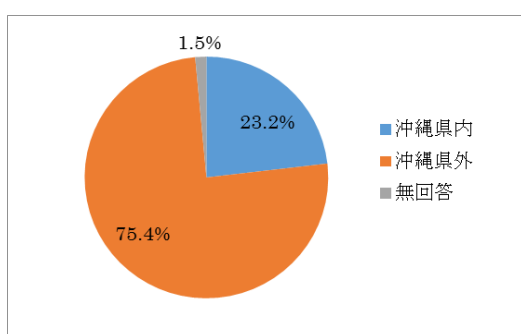


図10 居住地

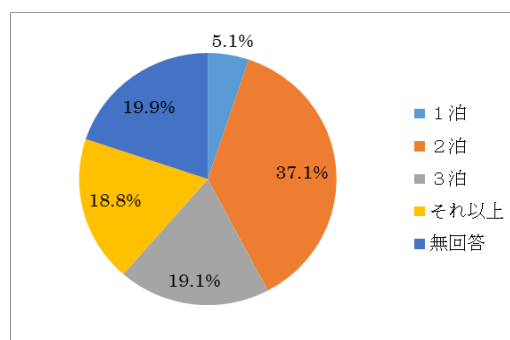


図11 宿泊日数

次にイベントの魅力の1つであるエイドについては、設置場所は年度で多少異なるが、2012年は人気1位「新城選手のおばあちゃんち(家)」、2013年は「クラブメッドホテル」であった。新城選手は石垣島出身の自転車選手であり、祖母が自宅前で沖縄の名産物の手作りアンダギー、シークワージーユース等を提供されており、まさに地域住民によるホスピタリティであった。また「クラブメッドホテル」のエイドでは、南国フルーツの盛り合わせ、ホテルブレッド、ミニケーキ等、ホテルならではのホスピタリティであ

った。2012、2013年において2位の「船越漁港」エイドでは石垣名物の牛汁（沖縄伝統料理）が提供された。地元ボランティアが前日から牛汁を仕込むそうで、筆者も堪能した。このエイドで高校生のボランティアに牛汁の作り方について質問をすると、高校生が説明できなかった点については大人のボランティアの方が、「家庭によって味が違う」「本来は祝いの席で振舞われた」等補足説明を加え、とても会話がはずんだ事を記憶している。このような場面は競技志向の自転車イベントでは見られない事であり、地元の人々にとっては石垣島の伝統や食について、他の地域の人々に理解してもらう機会ともなる。またイベント参加者にとっては、スポーツを楽しみながら石垣の伝統文化に触れる機会でもある。「来年もこのスポーツイベントに参加をしたいか」の質問に「はい」「検討する」を合わせるとほぼ100%（99%、98%）であった（図12）。2013年において「参加費用について」は「ちょうど良い」「安い」が8割であり（図13）、「イベント参加の満足度」については「とても良い」「良い」が9割以上であった（図14）。参加者は本イベントに対して9割以上が満足していることが分かる。

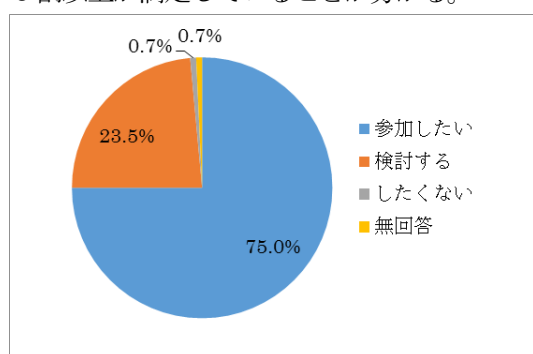


図12 来年の参加について

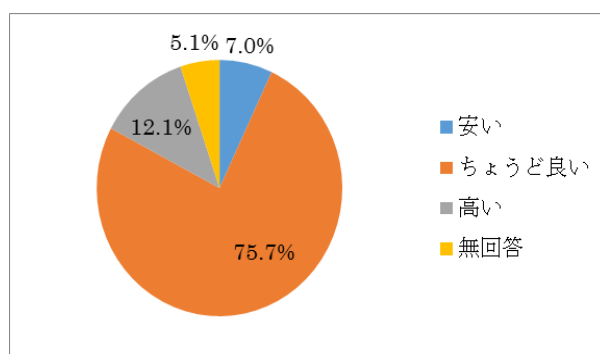


図13 参加費について

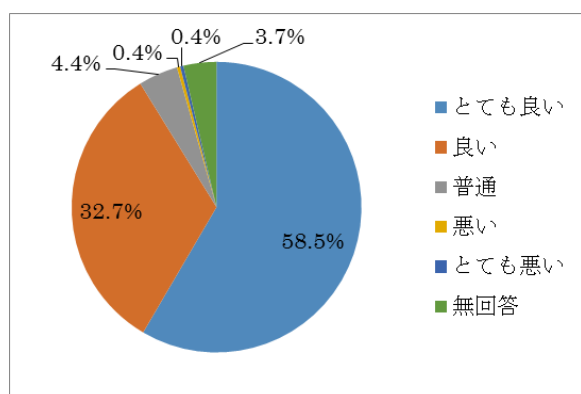


図14 参加者のイベント満足感

次に個人の意見、感想を調べるために自由記述についてみると、「風景がよい」「とても環境の良い楽しい大会」（多数）という開催地そのものを評価しているほか、「最高のイベントでした。各エイド、スタッフおもてなし度100点満点 本当楽しかった。ありがとう。スタッフの皆さん、お疲れ様でした。」「エイドステーション充実、景色、気温、島の人、ボランティアなどすべてよい」、「スタッフの温かい応援」「エイドの高校生の笑顔」など、サポート側に対しての好評価（多数）がみられた。一方、1割弱の参加者はイベントについて「悪い」「ものすごく悪い」という評価をしており、コメントには「エイドの入り口がわかりづらかった」とう案内指示の不適切さ、「（自分が）たぶん最後尾？スタッフがさっさと前の女性とずっと一緒に走ってふりむきもせず・・・」といった記載があった。このことから、初心者や県外者の

参加が多い本イベントでは、コース案内の徹底、そして自転車走行でのサポーターは後方参加者（初心者）への気配りが大切であり、イベントに対する満足度に大きく関わると感じた。

「GREAT EARTH 石垣島ライド」は、スポーツツーリズムの観点からみると、石垣島特有の地理的条件（観光資源）と「スポーツ資源」をうまく融合しており、またイベントの趣旨である「自転車を通して仲間や地元の人々との交流や美しい自然、文化を楽しんでもらうことを目的にしたロングライドサイクルイベント」に合致していることがわかり、その結果リピーター率が高いことがわかった。リピーター率の高さはスポーツイベントにとって必要不可欠なことであり、これが地域活性化にもつながる。高井（2012）はスポーツイベントを開催するにあたって、参加者と同時にイベント構成者（自治体、ボランティア、サポーター他）ごとの満足度を設定し、成果を次回イベントに反映させることが必要と述べている。次に協力者へのアンケートを分析する。

### 3.2.2. 協力者へのアンケート

2013年イベントでは協力者に対してアンケート調査を行った。協力者（エイド担当、交通整理、補助役員、伴走者）の配置は図15の通りであった。協力者アンケートの回答者の主な所属は、八重山自転車協会、石垣市体育協会、八重山高校陸上部、(社)日本トライアスロン連合であった。

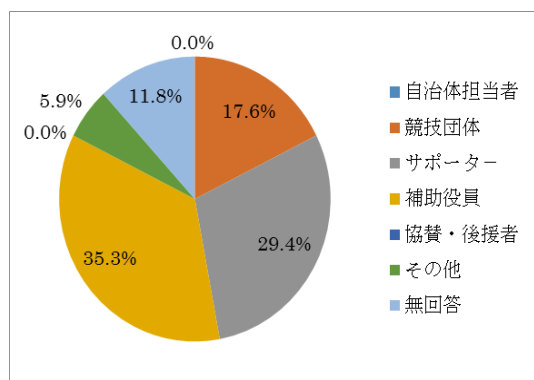


図15 協力者の配置

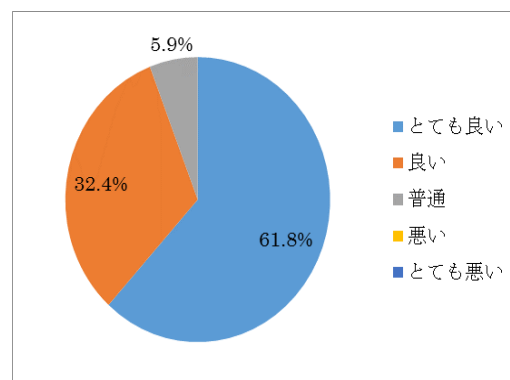


図16 協力者のイベントに関わった満足感

協力者へのアンケート調査については回収率が少なかったため、「自由記述」については主催者に対する意見・要望と個人の感想に分けて検討を行い、さらにホスピタリティに関する部分を取りあげて考察を試みた（表1）。まず主催者への意見・要望として「案内表示がずれていたため、コース間違いが多数見受けられた」「（雨上がりのためか）米原入口付近転倒数名。減速表示が必要（表1のNO. 1記述。以下、記述NO. を記載）」「立哨員がコースを把握していない、コース案内が不明瞭（NO. 29）」等、協力者側からのコースに対しての意見があった。本イベントの魅力は美しい自然、文化を楽しんでもらうことを目的にしたコースであるにもかかわらず、コース案内が不明瞭であったり、転倒しやすい場所があったりすることは、主催者側の気配りと安全配慮不足も考えられる。主催者は前日に全コースの下見を行い、その際にコース・エイド掲示を行っているが、イベント当日の悪天候等も考慮しての実地踏査が必要であることが推測された。このような配慮はイベントを運営するうえで重要であると考えられる。「交代要員がいないためトイレに行けず、昼食もおにぎりを片手に持って食べながらコース案内をした（NO. 4）」「置いてあるはずのテーブル、ゴミ袋がなかった。次のエイドへ移動しての準備が間に合わない（NO. 2）」「ボランティアが不足していると感じた（NO. 3）」「地域の方との連携が取れていない。運営側の準備不足（NO.16）」

等、協力者の実動における問題点が浮かび上がった。イベントを継続するうえでボランティアスタッフ等の協力は不可欠であり、気持ち良く働いて頂くためにも主催者は真摯に受け止めるべき意見だと思われる。それによってこのイベントがより良いものとなり、協力者との関係がさらに深まると考える。その他の意見として、「エイドの食料が場所によって過不足が生じている (NO. 7, 15)」という意見があり、主催者はこれらの状況を確認し今後のイベント運営に生かしていく必要がある。

本イベントには地元の八重山高校陸上競技部を中心とした生徒が例年、交通案内、エイド役員として関わっている。本大会の企画運営を行っている団体は、東京、北海道他においても同様のスポーツイベントを企画しており、高校生たちを東京のイベントにも関わらせているとの事であった。高校生にヒアリングをしたところ「東京へ行くことが出来て良かった」「八重山高校陸上部の伝統なのでやっていますが、楽しい」との声があった。交通整理の生徒は、分かれ道では大きな声で「こちらです!」「車が来ます!」と、とても気持ちが良い仕事を行っていたのが印象的であった。高校生という多感な時期に、県外から来た大勢の人に接し、地元を楽しんでもらうイベントの手伝いをするには、彼らにとって様々なことを考えるきっかけになると筆者らは感じた。個人の感想としては、「サービス、笑顔で!選手と一緒に楽しむことが出来た (NO. 7)」、「県内外の人と交流が出来て充実した1日でした」、「来年も補助役員として参加したい (NO. 9)」、「来年は島を出てしまうので残念。機会があればまたお手伝いをしたい (NO. 12)」、「補助役員を通して刺激を受け、元気をもらいました (NO. 18)」、「ありがとう、と言ってもらえてうれしかった。サポーターをやってよかった (NO. 19)」、「色々な人と交流が出来た (NO. 9,15)」など、土地柄的にも他県の知らない人達との関わる機会は少ない生徒たちが、大会運営の手伝いを通して、ホスピタリティの気持ちや楽しさや充実感を得ることが出来たことがわかる。

「石垣はもっと発展するので、このような大会で楽しんでほしい (NO. 18)」と、この大会の補助役員を通して、地域の発展に関心が向いたことが読み取れる。

「イベントに関わった満足度」については「とても良い」「良い」を合わせると9割であった (図 16)。今回は全ての協力者に対してアンケートを行うことが出来なかったため、個人の意見からスポーツイベントと協力者の満足感とホスピタリティについての関係を考察した。

#### 4. 結論

本稿では、スポーツイベントとホスピタリティの関係性を考察するにあたり、「ECO スピリットライド & ウォーク in 南城市」第4回大会 (2014. 2/23) のイベントの参加者協力者に対するアンケート調査、および「GREAT EARTH 石垣島ライド」(2013.10/27) のイベント参加者と協力者に対するアンケート調査を実施した。その結果、以下のことが明らかとなった。

<事例1. 「ECO スピリットライド&ウォーク in 南城市」より>

協力者がイベントに関わった理由は「業務で依頼を受けたから」が最も多く、次いで「地域活性化のため、『おもてなし』をしたいから」、「地域の歴史・文化を伝えたいから」、「自転車に興味があるから」の順だった (図6参照)。そこからは、協力者にイベント協賛の役所関係者や出店者が多かったため、自発的というよりは業務として協力したことがうかがえた。しかしながら、地域活性化やおもてなし、歴史文化を伝えたいという理由も少なくはなかった。従って、協力者らは決して義務感だけで行ったのではなく、イベント参加者に地元の良さをPRし、おもてなしをしていこうという意欲もあったとみることができる。

また、協力者がイベントで多くの人々との出会いを楽しみ、参加者の喜ぶ姿に自らも喜んだこと、および地元の宣伝や活性化など地域貢献ができたことに満足したこともわかった。さらに、今後県外からの参加者を多く呼びたいかという質問に対しては、「はい」と答えた人が約83%、「いいえ」と答えた人が約

表1 石垣アースライド「協力者アンケート」自由記述

NO	自由記述	性別	所属	年代	市町村名	職業
1	川平ロータリーのコース案内コーンの置き場所が少しずれしていたため、コース違いをする人が多数見受けられた。	男性	無回答	50代	石垣市	経営者・自営業
2	名蔵湾エイド 準備品のテーブルがなかった・ゴミ袋やそばののこり入れ等がなかった・そばのつゆがうすかった・そばの入れものがたりなかった・崎枝出口から名蔵エイドに移動して準備する時間がたりなかった	男性	競技団体	50代	石垣市大川	経営者・自営業
3	初めてアースライドのボランティアに参加しました。全体的に初めボランティアが足りないのかなと感じましたが、レースに参加している選手の皆さんがとても慣れている為助かりました。私は米原AIDの入り口でしたが、入り口で転倒する方が数名いました。(雨が降り、急な坂に入口がある為)減速の大きな看板があると良いと思いました。ボランティア人数はコース4名 エイド2名で充分でした。	女性	その他	30代	石市市	会社員・公務員
4	玉取展望台の入口と出口の担当でした。私が出口、高校生が入口に1人ずつでした。トイレに14:30まで行けません。また、食事も半分オニギリをもちながらあわてて口にする感じでした。他の部所は近くにエイドがあったため交代・応援してくれたのですが、玉取はエイドまできりがりあり応援のためできませんでした。昼食とトイレ交代が必要だった。	女性	サポーター	60代	石垣市	その他
5		女性	その他	40代	石垣市	専業主婦
6		男性	競技団体	60代	石垣市	その他
7	AIDで選手が楽しんで参加できるように サービス、笑顔で！など選手と一緒に自分達も楽しんでできた。改善点は、食料やスポーツ飲料等が沢山あまった。人数(参加人数)などをもっとしっかり把握するべきだった。楽しかった！以上！	女性	補助役員	10代	石垣市	学生
8	今回は、エイドの補助員でした。たくさんの競技者の方々が笑顔になってくれてこっちもすごく嬉しくなりました。今年もたのしい補助でした。	女性	補助役員	10代	石垣市	学生
9	早起きはとても大変でしたが、県外の人達や県内の人達など、色んな人と交流できたので、とても充実した1日でした!!声をかけると返事がかえってきたのでとてもうれしかったです。来年もまた、補助役員として参加したいです!!	女性	補助役員	10代	無回答	学生
10	今回は、補助役員で参加させていただきました。2回目Clubmed Aidで、補助させてもらったんですが、国際交流のような感じで、ダンスをしたり、軽食をくばったりしてとてもたのしかったです。自分は、来年もやる予定なので、またよろしくおねがいします。本当にありがとうございました!!	女性	補助役員	10代	石垣市	学生
11	AIDでクラブメッドの人たちと いろいろと話したり、一緒にダンスしたりして、仲よくなったのでよかったです！	女性	補助役員	10代	石垣市	学生
12	クラブメッドで外人の人と楽しく踊りながら選手を迎えられたし、おいしい料理がいっぱい食べられたのでいちばん楽しい幸せな補助員でした。光栄もたのしくステキな方たちと出会えました！来年は島を出してしまうのが残念ですが、機会があればまたお手伝いさせていただきます!!	女性	補助役員	10代	石垣市	学生
13	県外の人たちと、関わる事ができて、とても良かったです。来年もエイドとして、がんばりたいです。	女性	補助役員	10代	無回答	無回答
14	私は今回補助員として参加させて頂いたんですけど、みんな疲れていながらも、声かけをしてくれてとても楽しかったです。	女性	補助役員	10代	無回答	学生
15	選手だけでなく、観光客とも、交流できたので、とても、よかったです。のこりものが、多くこっているのが、ちょっとせいいっぱいだと思います。	男性	補助役員	10代	石垣市	学生
16	・運営側と、地域の方との連携が取れていない。・運営側の用意不足	男性	補助役員	10代	石垣市	学生
17	改善点は特にありません。走路員をしていて、頑張っている競技者を見て自分たちも頑張ろうと思いました。	男性	補助役員	10代	石垣市	学生
18	補助員をして、さまざまな面で刺激や、元気をもらいました。この大会で、いろんな人が石垣島を楽しんでくれたと思います。これから石垣島は、もっと発展すると思うので、このような大会で楽しんでほしいです。	男性	補助役員	10代	石垣市	学生
19	今日、朝早くからアースライドの補助員をして、補助員をしているときに選手の皆がきついはずなのに、笑顔でありがとうっていつてくれてとてもうれしかったし、やってよかったと思いました。来年も頑張りたいです。	男性	サポーター	10代	登里城	学生
20		男性	サポーター	40代	那覇市	会社員・公務員
21		女性	サポーター	30代	石垣市	会社員・公務員
22		男性	サポーター	30代	石垣市	会社員・公務員
23	イベント前のPRをもっと行って、もっと盛り上げたいと思います。	男性	サポーター	30代	石垣市	経営者・自営業
24		女性	無回答	40代	竹富町	経営者・自営業
25	今回のコースは、車の通りが多く、危険な所がいくつかありました。(パラボドーパンナあたり)	女性	競技団体	30代	竹富町	経営者・自営業
26		女性	サポーター	40代	石垣	会社員・公務員
27		女性	無回答	40代	石垣市	パート・アルバイト
28	エイドステーションにエアアロンバス等の設置を	男性	競技団体	40代	竹富町	経営者・自営業
29	立しよう員がコースを正確に把握していない部分あり。コース案内が不明瞭!!	女性	競技団体	40代	石垣市	経営者・自営業
30		男性	競技団体	10代	石垣市	学生
31		女性	サポーター	40代	新栄町	経営者・自営業
32	クラブメッドのパン、クッキーが最高に良かったです。	女性	無回答	50代	石垣市	専業主婦
33	特に無し	男性	サポーター	50代	沖縄県	経営者・自営業
34		女性	サポーター	50代	石垣市	経営者・自営業

5%だった。そこからは、現在、ほぼ県内の参加者で占められているこのイベントに、県外の人も呼び込みたいという気持ちが強いことが読み取れた。その思いが様々な改善点の指摘にもつながったとみられる。

昨年の本イベントのアンケート調査結果のうち、参加者の満足度をみると、「とても良い」が約39%、「良い」が約53%で、90%以上が満足していた。本イベント協力者がより多くの県外参加者と交流することを望むのなら、参加者の関心をより主催者側の意図、すなわち地元の聖地をはじめとする歴史・文化に



向けると同時にホスピタリティ面を充実させ、地元の魅力をアピールするような企画を今以上に打ち出し、いくことが求められるだろう。

#### ＜事例2. 「GREAT EARTH 石垣島ライドより＞

本イベントは約4割がリピーターであり（図9）、参加者にとって魅力的な大会であるといえる。エイドでは沖縄の名物を地域住民や地元ホテルが提供をしており、ホスピタリティにあふれていた。これは地元の人々にとっては石垣島の伝統や食について、他の地域の人々に理解してもらう機会となり、イベント参加者にとっては、スポーツを楽しみながら石垣の伝統文化に触れる機会でもあったことがわかる。参加者のほぼ全員が「来年もこのスポーツイベントに参加したい」と答えており、参加者はコース、エイド、経済的なことを含め、9割以上が満足していることが明らかとなった。リピーター率が高いことは、スポーツイベントにとって必要不可欠なことであり、地域活性化にもつながると考える。

自由記述からは、開催地そのものを評価しているほか「最高のイベントでした。各エイド、スタッフおもてなし度100点満点、本当に楽しかった。」など、サポート側に対しての好評価（多数）がみられた。

「GREAT EARTH 石垣島ライド」はスポーツツーリズムの観点からみると、石垣島特有の地理的条件「観光資源」と「スポーツ資源」をうまく融合しており、かつイベント主催者の趣旨である「自転車を通して仲間や地元の人々との交流や美しい自然、文化を楽しんでもらうことを目的にしたロングライドサイクルイベント」にも合致していることがわかった。協力者に対するアンケート調査では、参加者への気配り・安全配慮や協力者と主催者との齟齬があることがうかがえた。本イベントには地元高校生が例年、協力者として関わっているが、土地柄的にも他県の人達と関わる機会は少ない生徒たちが、イベントに関わったことで、おもてなしの心や地域の事に関心が向いたことが読み取れる。最後に「イベントに関わった満足度」については「とても良い」「良い」を合わせると90%であった（図16）。高井(2012)は、スポーツイベントは様々な要素が付帯して成り立っており、お客様（参加者）が投資する「カネ」と「時間」により大きな満足感を与えるように努力すべきであり、それによって地域とのコミュニケーションが集客に大きな影響を与え、地域への活力となる、と述べている。本イベントは参加者のみならず協力者（サポーター）にとっても満足感のあるイベントであり、高井が述べるように、ひいては地域の活性化につながるものと考えられる。

以上、沖縄本島と石垣島でおこなわれている2つのスポーツイベントをみてきた。両者を比較すれば、「ECO スピリットライド&ウォーク in 南城市」は主催が沖縄タイムス社、協賛が南城市という地元であり、参加者人数が多く、その内訳は県内がほとんどであるのに対し、「GREAT EARTH 石垣島ライド」は主催が県外（東京）で規模はそれほど大きくないものの、県外出身者の参加が多いことがわかった。また、「GREAT EARTH 石垣島ライド」は参加者のリピート率が高く、エイドの食べ物が郷土を意識したものであることなどが参加者には魅力となっていることが明らかとなった。また、「ECO スピリットライド&ウォーク in 南城市」の協力者には新聞販売店や市役所に勤める等社会人が多かったのに対し、「GREAT EARTH 石垣島ライド」協力者に地元高校生が加わっていることで、参加者に与える印象（フレッシュ度や元気のよさ等）が異なることや、イベントの継承の問題とも関係してくると考えられる。

観光客にとっては訪れた地域の特徴を満喫できたかどうか満足度の鍵となると考えられるが、特にその地元の人々と密に交流できたかどうかで、その旅の印象や満足度が変化するといえる。筆者らが扱ったイベントは、ともに参加者の満足度が90%以上であり、参加者の満足度には地元の人々の協力度合いや接待の工夫、熱意など、ホスピタリティ力といわれるものが大きく関連してくることが明らかとなった。



## 注釈

- 1) 2010年度は「ECO スピリットライド in 南城市」というイベント名であったが、2011年度にウォーキング部門が追加され名称が変わった。以下、現在の名称である「ECO スピリットライド&ウォーク in 南城市」と記す。
- 2) 実際は2011年3月下旬におこなわれる予定だったが、東日本大震災のため1か月延期され、4月23(土)～24日(日)の2日間開催された。
- 3) 沖縄タイムス社 2012:5
- 4) 沖縄タイムス社 2012:60
- 5) 沖縄(地元)色を出す案として、大会前後に地元をより知るためのオプションツアーを企画することも考えられる。たとえば、本稿でも事例として挙げている日本各地を会場にして行われるサイクリングイベント「GREAT EARTH」の石垣島大会(「GREAT EARTH 石垣島ライド」2013年10月27日開催)では、オプションツアーとして①ウミガメの放流を手伝い歴史文化を学びながら島をめぐる「黒島ウミガメ放流ツアー」(2013年10月28日開催)と、②島の大自然に触れる「西表島ライド」(2013年10月28日開催)が組まれた。これは、大会開催地である石垣島地方をより深く知るためのよい機会になると考えられる。
- 6) 2012年以前は「石垣島アースライド」という名称であった。
- 7) 2013年「株式会社デポルテ」に名称変更
- 8) アンケート用紙を巻末資料に掲載した。

## 参考・引用文献およびサイト

- ・工藤康宏(2012)、「22章スポーツツーリズム」、原田宗彦編著、『スポーツ産業論第5版』杏林書院、pp.280-291
- ・スポーツ・ツーリズム推進連絡会議 [http://www.mlit.go.jp/kankocho/topics05\\_000034.html](http://www.mlit.go.jp/kankocho/topics05_000034.html) (アクセス/2015.9.)
- ・木村和彦(2009)、「第2章スポーツ・ヘルスツーリズムの概念と現状」、原田宗彦、木村和彦編著『スポーツ・ヘルスツーリズム』大修館書店、pp.29-46
- ・松永敬子(2009)、「第9章日本のスポーツ・ヘルスツーリズムの現状と課題」、原田宗彦、木村和彦編著『スポーツ・ヘルスツーリズム』大修館書店、pp.181-208
- ・沖縄タイムス社(2012)、『平成23年度 スポーツツーリズム戦略推事業(モデル事業実施業務)2012 ECO スピリットライド&ウォーク実施報告書』
- ・沖縄県(2013)、『平成24年度 スポーツ・ツーリズム推進事業(戦略構築等業務)報告書』
- ・スポーツ・ツーリズム推進連絡会議(2011)、「スポーツツーリズム推進基本方針」  
<http://www.mlit.go.jp/common/000160526.pdf> (アクセス/2015.9.)
- ・沖縄県南城市 まちづくり推進課編(2009)『南城市地域再生マネージャー事業 2006—2008年度活動報告書』
- ・塩月亮子・丹野忠晋・渡辺律子(2012)、「沖縄の世界遺産と観光—聖地を用いたスポーツイベントの事例から—」『跡見学園女子大学観光マネジメント学科紀要』vol.2、pp.35-49
- ・渡辺律子・塩月亮子・丹野忠晋(2013)、「地域資源を生かしたスポーツツーリズムの在り方について—自転車イベントにおける健康安全管理と水分摂取についての検討—」、『跡見学園女子大学文学部紀要』48号、pp.211-231

- ・工藤康宏・野川春夫 (2002)、「スポーツ・ツーリズムにおける研究枠組みに関する研究—”スポーツの捉え方に着目して—」、『順天堂大学スポーツ健康科学研究』6、pp.183-192
- ・高井聡(2012)、「13 章スポーツイベントと集客戦略」、原田宗彦編著『スポーツ産業論第5版』、杏林書院、pp.170-179

#### 【付記】

本稿は平成 26 年度跡見学園特別研究助成（課題：沖縄のスポーツイベントにおけるホスピタリティと地域活性化に関する比較研究）を基に作成された。ここに深謝する次第である。

また、アンケート集計に関しては、岡田美紀代さんに大変お世話になった。あわせて御礼申し上げる。

## 「ECO スピリットライド&ウォーク in 南城市 2014」アンケート

このアンケートは跡見学園女子大学の「沖縄におけるスポーツイベントによる地域活性化」と題する研究の一環として実施しております。データは全て統計処理されますので、個人が特定されることはありません。アンケートにご協力頂きますよう宜しくお願い申し上げます。

1. 性別 ①男性 ②女性
2. 所属 ①主催(沖縄タイムス社)担当者 ②協賛(南城市役所)担当者 ③ボランティアガイド  
④エイド協力者(団体名等: ) ⑤タピック(医療)関係者 ⑥ユインチホテル関係者  
⑦ライドのリーダー役(自転車協会関係) ⑧出店関係者 ⑨観光業関係者 ⑩その他( )
3. 年代 ①10代 ②20代 ③30代 ④40代 ⑤50代 ⑥60代 ⑦70代以上
4. 居住地 県内(市町村名: ) 県外(都道府県名: )
5. 職業 ①会社員・公務員 ②経営者・自営業 ③専業主婦  
④パート・アルバイト ⑤学生 ⑥その他( )

6. 下記5つの参加理由につきまして【 】順位を付けて下さい

- ・業務(依頼を受けたから).....【 】
- ・自転車等に興味.....【 】
- ・地域活性化のため.....【 】
- ・地域の歴史・文化を伝えたい.....【 】
- ・「おもてなし」をしたい.....【 】

\*その他の理由 【 】

7. イベントに関わった満足度はいかがでしたか?

- ⑤とても良い ④良い ③普通 ②悪い ①とても悪い

\*「悪い」「とても悪い」と思われた理由をお聞かせ下さい。

【 】

8. このイベントには県内参加者が多く参加しています。今後県外からの参加者を多く呼びたいと思いますか?

- ①「はい」 →そのためにはどうしたら良いと思いますか。

【 】

- ②「いいえ」(このままで良い) →その理由をお聞かせ下さい。

【 】

9. イベントに関わってのご感想や良かったことや改善点があれば、是非お聞かせ下さい。

今後の貴重な資料とさせていただきます。

【感想・良かった事】

【改善点】

ご協力ありがとうございました。

## 資料2. 協力者(石垣島担当者、競技団体、サポーター、協力者)向けアンケート用紙

### 「グレートアース石垣島ライド 2013」 協力者アンケート

このアンケートは跡見学園女子大学の「沖縄におけるスポーツイベントによる地域活性化と健康調査」と題する研究の一環として実施しております。データは全て統計処理されますので、個人が特定されることはありません。アンケートにご協力頂きますよう宜しくお願い申し上げます。

1. 性別 ① 男性 ② 女性
2. 所属 ①自治体担当者 ②競技団体 ③サポーター ④補助役員  
⑤協賛・後援者 ⑥その他 差し支えない範囲での所属名 ( )
3. 年代 ①10代 ②20代 ③30代 ④40代 ⑤50代 ⑥60代 ⑦70代以上
4. 居住地 県内(市町村名: ) 県外(都道府県名: )
5. 職業 ①会社員・公務員 ②経営者・自営業 ③専業主婦  
④パート・アルバイト ⑤学生 ⑥その他 ( )
6. 下記5つの参加理由につきまして【 】順位を付けて下さい  
・業務(依頼を受けたから) . . . . . 【 】  
・自転車等に興味 . . . . . 【 】  
・地域(石垣島)活性化のため . . . . . 【 】  
・地域(石垣島)の歴史・文化を伝えたい . . . . . 【 】  
・「おもてなし」をしたい . . . . . 【 】  
・その他理由 ( )
7. イベントに関わった満足度をお聞かせ下さい  
⑤とても良い ④良い ③普通 ②悪い ①とても悪い  
\*「悪い」「とても悪い」と思われた理由をお聞かせ下さい。( )
8. 自由記述

イベントに関わってのご感想や良かったことや改善点があれば、是非お聞かせ下さい。

今後の貴重な資料とさせていただきます。

ご協力どうもありがとうございました。なおご記入の際にお使い頂いたペンは差し上げます。機会がありましたらまた宜しくお願い致します。

### 資料3.参加者向けアンケート用紙

#### 「グレートアース石垣島ライド2013」参加者アンケート

1. 性別 ① 男性 ② 女性
2. 年代 ① 10代 ② 20代 ③ 30代 ④ 40代 ⑤ 50代 ⑥ 60代 ⑦ 70代以上
3. 居住地 県内(市町村名: ) 県外(都道府県名: )
4. 職業 ① 会社員・公務員 ② 経営者・自営業 ③ 専業主婦  
④ パート・アルバイト ⑤ 学生 ⑥ その他( )
5. 今回の走行距離は? ① 120km ② 90km ③ 55km
6. オプションツアーに参加しますか?  
① 不参加 ② ジェンゲルツアー ③ ウミガメの放流
7. スポーツバイク歴は? ① 1年未満 ② 1-3年 ③ 3-5年 ④ 5-10年 ⑤ 10年以上
8. 今回参加した自転車種類は? ① ロード ② クロス ③ MTB ④ 小径車 ⑤ 一般車
9. 自転車イベントに年間何回くらい参加しますか? ① 初めて ② ( ) 回くらい
10. 大会を何で知りましたか[ ]
11. 石垣アースライドの参加歴 ① 初回 ② (2012・2011・2010・2009・2008 )
12. 開催日程はいつがいいですか?  
① 今回同様 (10月下旬) ② ( ) 月 初旬・中旬・下旬
13. 来年も参加したいと思いますか ① 参加したい ② 検討する ③ したくない  
\*理由があればお聞かせ下さい
14. どのエイドが良かったですか ① 崎枝集落 ② クラブメッドカビラ ③ 米原ビーチ ④ 船越漁港  
⑤ 平久保崎灯台 ⑥ 玉取崎展望台 ⑦ 光楽園 ⑧ 名蔵湾 ⑨ 船蔵公園
15. 宿泊日数 ① 1泊 ② 2泊 ③ 3泊 ④ それ以上 宿泊先名
16. 参加の一番大きな理由  
① 自転車等で走ることや体力づくりに興味 ② 自然やエコロジーに興味  
③ 信仰や歴史など、文化面に興味 ④ その他
17. イベント参加費の感想 ① 安い ② ちょうど良い ③ 高い
18. 今回のイベント参加でどのくらいの費用がかかりましたか  
(イベント参加費、交通費、宿泊費、食事代、レンタサイクル代、オプションツアー代等をすべて含めて)  
① 1万円以下 ② 1万円～2万円 ③ 2万円～3万円 ④ 3万円～4万円  
⑤ 4万円～5万円 ⑥ 5万円～6万円 ⑦ 6万円以上
19. 「あったらいいな!」と思った事や物をお聞かせ下さい
20. イベントに参加しての満足度をお聞かせ下さい  
⑤ とても良い ④ 良い ③ 普通 ② 悪い ① とても悪い  
\*「悪い」「とても悪い」と思われた理由をお聞かせ下さい